

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば



「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」
ヨハネによる福音書 3章16節a より

きょうかいがっこうれいはい

教会学校礼拝プログラム

2026年 1月11日

前奏
*賛美

お祈り

「しゅににしがうことは」 こどもさんびか改定版 119

天の父なる神様、今朝も礼拝をおさげ出来ますことを感謝いたします。あなたは御子イエス様の生き方を通して愛を示してくださいました。愛さない生き方から愛する生き方に罪人である私たちを導いてください。イエス様に倣って歩めますように導いてください。新学期の生活もお守り下さい。このお祈りをイエス様のお名前によってお祈りいたします。アーメン

聖書
交読詩編

ヨハネの手紙一 3章11～18節 (p 432)

交読詩編 (20) 詩編150より p. 210

説教

「イエス様のように」

ヨハネの手紙は使徒ヨハネによって「神は愛である」ことが書かれています。私たちは日々の生活の中で相手を憎んだり妬んだり、否定してしまうことがあります。反対にされていることもあるでしょう。しかし、そのような「死」の生き方から「命」の生き方へ移ったと言われるのです。どの様に？ それは御子イエスさまご自身が十字架にかかって犠牲になってくださったことで私たちは神様の愛を知りました。弟子たちはイエス・キリスト(愛)の教を聞いただけでなく、実際に見て触れて体験しました。そのキリストの愛を模範にして、互いに愛し合うことが教えられています。それも言葉や口先だけでなく…。イエス様の歩みに倣って歩みたいですね。きっとイエス・キリストを信じている私たちに聖霊が働いて下さることでしょう。
「愛は忍耐強い。愛は情け深い。妬まない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、怒らず、悪をたくらまない。不正を喜ばず、真理を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを望み、すべてに耐える。」(コリントの信徒への手紙一 13: 4～7)

暗唱聖句

互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです。

(ヨハネの手紙一3章11節)

黙想タイム

*賛美

「こすずめも、くじらも」 こどもさんびか改訂版 113 (21-425)

献金と感謝のお祈り 24-1

*主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 アーメン

お知らせ

- ・今日は1月のお誕生日会をします。
- ・教会に来られない時は、LINEを利用して家庭礼拝をおさげしましょう。
- ・次週のお話もたのしみにしてください。

*賛美

36 いまでかけよう

*祝福

八木浩史牧師

後奏

11 なぜなら、互いに愛し合うこと、これがあなたがたが初めから聞いている教えだからです。12 カインのようになつてはなりません。彼は悪い者から出て、兄弟を殺しました。なぜ殺したのか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。13 きょうだいたち、世があなたがたを憎んでも、驚いてはなりません。14 私たちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。きょうだいを愛しているからです。愛することのない者は、死の内にとどまっています。15 きょうだいを憎む者は皆、人殺しです。人殺しは皆、その内に永遠の命をとどめていないことを、あなたがたは知っています。16 御子は私たちのために命を捨ててくださいました。それによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちもきょうだいのために命を捨てるべきです。17 世の富を持ちながら、きょうだい貧しく困っているのを見て憐みの心を閉ざす者があれば、どうして神の愛がその人の内にとどまるでしょう。18 子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

<さんび>

しゅにしたがうことは

1. しゅににしたがうことは なんとうれしいこと
こころのそら はれて ひかりはてるよ。
- * (くりかえし)
しゅのあとにつづき ともにすすもう
しゅのかせにつづき うたってすすもう
2. しゅにしたがうことは なんといいあわせ
わるいおもい きえて こころはすむよ。 *
3. しゅにしたがうことは なんとこころづよい
おそれのかげ きえて ちからはますよ。 *



讃美歌21-425

こすずめもくじらも

1. こすずめも、くじらも、そらのほしも、 4. うえ、かわき、やまいと、ろうひのよに、
つくられたかたを たたえてうたう。 つくられたものは いやしもとめる。
2. おおじんも、あらしも、いなびかりも、 5. りんじんとてきとの へだてはなく
つくられたかたに たすけをもとめる かみはあいとへいわ おあたえになる。
3. なないろにかがやくにじとじゅうじか、 6. いつのよもおられる あいのかみは、
そらのはかをみて、かんしゃささげよう。 みらいのせだいの いきるよろこび。

